

特
設
展

一葉さん、おじゃまします

ひ ぐち いち よう
～ 模型と写真で再現する樋口一葉の世界 ～



樋口一葉 (1872～1896)

東京生まれ。両親は山梨県甲州市塩山えんさんの出身。短い生涯で「たけくらべ」「にぎりえ」など社会の底辺で生きる人々や、封建的な社会を生きる女性を描いた作品を残した。

三浦宏 (檜細工師 1926～2019)

東京浅草生まれ。祖父、父の技術を継承し、風呂桶制作のかたわら、江戸期の家屋や生活道具などを職人としての経験と時代考証に基づき再現。十分の一、二十分の一の縮尺で制作された作品は内部の調度品まで事細やかに表現され、人々の気配まで感じられる。



左上：一葉の小説「にぎりえ」の主人公お力ちからが働く銘酒屋・菊の井
横幅約80cm

左：一葉の終の棲家本郷丸山福山町の家の調度品
2点ともに石崎幸治撮影

そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

2026年10月10日(土)～
12月13日(日)

一葉さん、おじゃまします

ひぐち ちよう
～ 模型と写真で再現する樋口一葉の世界 ～

田所美恵子(針穴写真家)

東京生まれ。日本女子大学文学部英文学科卒業。1990年に渡仏。シャロン・スチュール・ソーヌ市立ニセフォル・ニエプス美術館で針穴写真を学ぶ。以後、日本とフランスで展覧会、講演会やワークショップを多数開催。様々な媒体を通じ針穴写真の普及に努める。2005年に日本針穴写真協会を設立し、2006年から同協会会長。著書に『針穴のバリ』(2006年 河出書房新社)、共著に『一葉に逢いたくて』(2007年 河出書房新社)など。



三浦宏が制作した銘酒屋・菊の井(にぎりえの舞台)の模型に、針穴写真用の手作りのカメラを差し入れる様子

ひのきざい く し
本展は、檜細工師三浦宏が、二十分の一の縮尺で制作した一葉の本郷丸山福山町の居宅や小説「大つごもり」と「にぎりえ」の舞台、あわせて3棟の模型と共に、田所美恵子とその内部を自作のカメラで撮影したモノクロプリントの針穴写真を展示します。一葉が暮らし、描いた明治の家のたたずまいと人々の暮らしの様子が立体的に立ち上がってくる展覧会です。



左:菊の井の内部
上:本郷丸山福山町の家の内部
2点ともに田所美恵子撮影



樋口一葉「にぎりえ」未定稿
初めて菊の井に上がった客と主人公お力とのやりとりが描かれている。

一葉に逢いたくて

田所美恵子

二十年前のある日のこと、翌年に控えていた銀座のボーラミュージアムアネックスでの写真展の被写体探しに奔走していた私は、夕刻のテレビ番組の画面に釘付けになった。それは江戸の長屋の内部を小型ビデオカメラで進む様子だった。中心部は鮮明だがそれ以外の部分は大きくぼやけている。ミニチュアを撮ったときのレンズ付きカメラがあるのだ。針穴写真で撮れば、実物大の家にいるような写真が撮れるのに、と即座に思った。

模型の作者は檜細工の三浦宏氏、すぐに担当者と一緒に浅草の仕事場へ赴き、樋口一葉に関連する作品群を拝借したいと願ひ出てご快諾いただいた。一葉をより深く知りたいと小説や日記を読み返したのは言うまでもないが、三浦氏の仕事場にも足しげくお邪魔して、一葉への想いや、江戸・明治の建物や木材に関する幅広い知識と愛着に満ちた言葉に直に触られたことは、撮りおろしの大きな助けとなった。様々な関係者からの支援を頂戴し、こうして翌年、針穴写真と模型によるコラボレーション展『一葉に会いたくて』の開催と、ビジュアルブック『一葉に逢いたくて』（河出書房新社）の刊行が実現した。

ところで「針穴写真?」「レンズがなくても写真が撮れるの?」という疑問を抱く読者も少なくないはずだ。私と同世代であればおそらく幼少のころ体験したであろう、兩戸の節穴から差し込むぼんやりとした外光の揺らぎを覚えているかもしれない。あるいは葛飾北斎の富嶽百景にある『さい穴の不二』で、この不思議な現象の種明かしを知っているかもしれない。「小さな穴から暗い部屋に入ったひとすじの光が、奥の壁に外の景色を逆さまに映し出す」という現象は、部屋が小箱になり、穴が一ミリの数分の一くらいになっても同じように起こる。しかもそれは、もっと鮮明な映像と

なり、そこにフィルムなどの感光材料を仕掛ければ、針穴写真と呼ばれる写真ができてあがる。

レンズ付きのカメラと大きく異なるのは、光を採りこむ穴が非常に小さくて暗いので瞬間は切り取れず、動くものはブレたり消えたりしてしまうこと。手前から遠くまで同じピントで写る（パンフォーカス）が、レンズのピントが合ったときのシャープさではなく、全体がソフトフォーカス的なボケ感のある絵画的な描写になること。

そしてもうひとつのポイントは、カメラといえども、レンズがない上に、ファインダーもフィルムの巻き上げ装置もない簡素な構造ゆえに、身近なものを利用して誰でも簡単に針穴カメラを自作できることである。二十分の一や十分の一といった縮尺で作られた三浦宏氏の模型は、どのようなカメラで撮っても様になる。だが外観と同じように精巧に造られた室内を実物のように写すには、どうしても針穴カメラが要る。しかもそのカメラはわずか9センチの間口を潜り抜けられなくてはならない。そこでバンドエイドの缶を見つけて針穴カメラに仕立てて撮影した。

今やデジタルにすっかり置き換えられ、「絶滅」したとまで言われるアナログ写真だが、カメラ作りから暗室作業まですべて手仕事で行う手法を私は手放さない。三浦氏との会話の中で頻繁に耳にした【悟える（こしらえる）】という動詞は、「手」と「存」から成るのだと気付いたときは、我が意を得た思いがした。樋口一葉の世界を後世に伝える三浦氏の手の存在を、虚実ないませの描写で翻訳して、目に見えるようにするのも手作りの写真。会場で一葉の住まいを訪れたり、お力のいる菊の井の階段を上り下りしたりする自分の姿を投影しながら、一葉の生きた時代の空気や明治の女たちの息遣いをより身近なものとして感じてもらうことができたなら幸いである。

（たどころ みえこ 針穴写真家）

常設展

第1室～第4室(展示室A)

樋口一葉、芥川龍之介、飯田蛇笏など山梨県出身・ゆかりの作家を紹介する各コーナーの展示替えとともに、第1室でテーマ展示を次のとおり行います。

秋の常設展「芦澤一洋 歿後30年」

2026年9月1日(火)～11月29日(日)

かじか ぞういちろう
鯉沢町(現 富士川町)出身の芦澤一洋 あし ぞう かずひろ (1938～1996) は、

アウトドアライターとして多くの著作を通じ、バックパッキングやフライフィッシングの魅力を日本に紹介しました。本展では、C. フレッチャー『遊歩大全』を始めとする翻訳書や『バックパッキング入門』など著書の数々を展示。中でも、野澤一、秋山秋紅蓼、野尻抱影など、自然に心を寄せた文学者たちの生涯に自身の幼少期・青春期の記憶を重ねた随想集『アーヴィングを読んだ日』の取材ノートや愛用の釣り道具、旧蔵書など約30点余りを展示します。(写真はアメリカ ヘンリーズフォーク川ラストチャンスにて 1993年7月13日 撮影 中村好行)



冬の常設展「宮沢賢治・保阪嘉内 生誕130年」

2026年12月1日(火)～2027年2月21日(日)

「注文の多い料理店」「銀河鉄道の夜」などで知られる宮沢賢治と、山梨県出身で、盛岡高等農林学校で賢治と出会い、以来親交を深めてきた保阪嘉内 ほさか かねい が今年で生誕130年を迎えます。この節目に際して、当館に寄託されている賢治から嘉内に宛てられた手紙、二人が盛岡高等農林学校時代に友人たちと発行した雑誌「アザリア」を展示します。



「アザリア」の仲間たち
1917(大正6)年 写真提供 個人
後列右から賢治、嘉内、前列右から
河本義行、小菅健吉。

春の常設展「飯田龍太 歿後20年」(仮称)

2027年2月23日(火・祝)～5月30日(日)

第5室(展示室B)

山梨県出身・ゆかりの文学者104名をジャンルごとに前後期に分けて展示します。

後期：詩・短歌・俳句・川柳・漢詩

2026年10月20日(火)～12月13日(日)

*第5室は12月15日(火)以降しばらくの間、施設整備のため休室します。

イベントガイド

*特設展関連イベントは電話または当館ホームページの「イベント」欄の申込フォームからお申し込みください。

*先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。

*詳細につきましては当館ホームページまたはチラシをご覧ください。

特設展 一葉さん、おじゃまします

～ 模型と写真で再現する樋口一葉^{ひぐち いち よう}の世界 ～ 関連イベント

講演会「針穴写真-先祖返りの写真術-」

10月17日(土) 午後1時30分～午後3時

講師:田所美恵子(針穴写真家)

会場:研修室 定員:70名 無料

ギャラリートーク 三浦宏の模型制作について展示会で解説します

11月8日(日) 午前の部 午前10時30分～午前11時

午後の部 午後1時30分～午後2時

解説:三浦佳子^{けいこ}(三浦宏長女)

会場:展示室C 定員:各10名 無料 ※電話のみのお申込みになります。

ワークショップ かな文字で書く 樋口一葉

お手本を元に、美しい紙に「かな文字」で一葉の小説の一節を書いてみませんか。

初心者・経験者を問わず参加できます。

10月18日(日) 午前の部 午前10時～午前11時30分

午後の部 午後1時30分～午後3時

講師:天野白汀^{はくてい}(書家)

会場:茶室 素心菴 定員:各10名 無料

*文学館でも用意しますが、かな用の筆がある場合はお持ちください。



ワークショップ つまみ細工で桜アクセサリを作ろう

10月25日(日) 午後1時30分～午後3時30分

講師:飯島薫(つまみ細工作家)

会場:研修室 定員:20名(小学生以上) 材料費:500円



その他のイベント

文学創作教室 三枝浩樹短歌講座

事前に短歌を一首作っていただきます。詳細は当館ホームページやチラシをご覧ください。

11月21日(土) 午後1時30分～午後3時30分

講師:三枝浩樹(歌人)

会場:研修室 定員:40名 無料

申込方法:電話または当館ホームページの「イベント」欄の申込フォームからお申し込みください。

申込締切日:10月21日(水) *申込者多数の場合は抽選となります。

年間文学講座

*講座1・2ともに午後2時～午後3時30分

*講座3は午後2時～午後3時10分

*お電話にてお申し込みください。

*年間を通してのお申込みも可能です。先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。

講座1 (古典文学) 平安朝の娘と父親 —『源氏物語』と『栄花物語』を中心に—

講師：池田尚隆 (山梨大学名誉教授) 会場：講堂 定員：200名 無料

10月10日(土) 藤原道長の栄華と娘たち

11月14日(土) 藤原道長と娘たちの死

12月 5日(土) 藤原公任・藤原行成・藤原齐信と娘

講座2 (近現代文学) 日本近代文学と美術

講師：野口哲也 (都留文科大学教授) 会場：研修室 定員：70名 無料

10月23日(金) 夏目漱石と西洋絵画

11月 6日(金) 浪漫主義文学と世紀末芸術

12月11日(金) 白樺派と美術・工芸

2027年1月22日(金) 挿絵と版画—恩地孝四郎・田中恭吉・木村莊八・棟方志功

講座3 作家と作品

会場：研修室 定員：70名 無料

11月 1日(日) 保坂雅子 (当館学芸員) 樋口一葉の住んだ家と物語の家

2027年1月24日(日) 進実来 (当館学芸員) 『源氏物語』より-花散里の人物像を読み解く

名作映画鑑賞会

10月11日(日) 「マチネの終わりに」 原作：平野啓一郎 監督：西谷弘
出演：福山雅治、石田ゆり子 他 カラー 123分 (申込開始日 8月18日)

2027年2月6日(土) 「銀河鉄道の父」 原作：門井慶喜 監督：成島出
出演：役所広司、菅田将暉、森七菜 他 カラー 128分 (申込開始日 12月15日)

*上映は午後1時30分から。会場：講堂 定員：300名 無料

*電話または当館ホームページの「イベント」欄の申込フォームからお申し込みください。

先着順で定員になり次第締め切ります。

*2027年1月12日(火)～19日(火)は休館中(館内整備)のためお申込みはできません。

閲覧室

入場
無料

資料紹介

定期的にテーマを設け、所蔵する図書、雑誌を紹介しています。
資料は、直接手にってご覧いただけます。



閲覧室資料紹介

「樋口一葉の時代を楽しむ」

「没後60年 山本周五郎」

10月 9日(金)～12月24日(木)

2027年 1月21日(木)～ 3月22日(月・振休)

季節のミニ展示

「文学deお正月」

12月25日(金)～2027年1月11日(月・祝)

山梨ゆかりの文学者資料紹介

「桜花爛漫 宇野千代の人と作品」

「戦後俳壇の雄 飯田龍太」

9月26日(土)～2027年2月25日(木)

2027年3月25日(木)～4月22日(木)

閲覧室トーク

閲覧室の利用方法や、書庫で保存している貴重な図書・雑誌についてご案内します。

11月20日(金) 県民の日

午後1時30分～午後2時。定員10名(先着順) 無料

*事前に電話または閲覧室カウンターでお申し込みください。

寄贈資料より

(2026年2月～7月)

- 志村史夫氏より水上勉「志村博子さんのこと」原稿など特殊資料53点。
- 永山幸子氏より田部重治宛小島烏水書簡など特殊資料7点。
- 栗林智子氏より廣瀬直人「色惜しみつゝ夜明けつゝ黒葡萄」軸装など特殊資料2点。
- 備仲臣道氏より備仲臣道「ヴィティス・ヴィニフェラ叙情詩」印刷資料1点。
- 富士川町教育委員会より鯉沢中学校校歌額装など特殊資料2点。
- 三橋透氏より卯木会新年句会選句稿など特殊資料78点、図書2点、雑誌3点。
- 興水秀之氏より興水秀之「貸家の新婚さんは『津島さん』」原稿1点。
- 鶴田東和氏より深沢七郎書簡など特殊資料17点。
- 佐野秀延氏より熊王徳平書簡1点。

次の皆様からも図書・雑誌をご寄贈いただきました。(敬称略)

秋元千恵子	Arim	一瀬多恵子	井上康明	井村英之	大石香代子	大村梓
小沢啓子	勝又浩	栗原敦	庄司達也	鈴木武晴	鈴木俊幸	全円子
武田東洋一	内藤明	内藤純子	長瀬和美	中村吾郎	服部仁	原朝子
日高昭二	広瀬俊子	藤澤太郎	松本章男	三島利徳	村山寿朗	吉川豊子

この他に団体の方々からもご寄贈いただいております。

ご案内

Information

内容が変更になる場合がございます。ご来館前に当館ホームページを必ずご覧ください。

開館時間

展示室	午前9時～午後5時 (入室は午後4時30分まで)
閲覧室	午前9時～午後7時 (土・日・祝は午後6時まで)
ミュージアム ショップ	午前9時30分～午後4時20分

*営業時間は変更になる場合があります。

休館日(10～3月)

10月	5・13・19・26日
11月	2・9・16・24・30日
12月	7・14・21・28・29・30・31日
1月	1・4・12・13・14・15・16・17・18・19・25日
2月	1・8・12・15・22・24日
3月	1・8・15・23・29日

*1月12日(火)～19日(火)まで館内整備のため休館

展示室観覧料

*11月20日(金)県民の日はどなたでも無料。

	常設展(特設展)		美術館との 共通券	企画展		常設展と企画展の セット券
	個人	団体 (20名以上)		個人	団体	
一般	330円	260円	680円	600円	480円	740円
大学生	220円	170円	340円	400円	320円	490円

*団体料金は20名以上の団体、県内宿泊者割引料金。

*大学生は学生証を提示。

*次の方は無料

- ・高校生以下の児童・生徒(高校生は学生証を提示)
- ・65歳以上(年齢が分かるものを提示、県外在住者は常設展のみ)
- ・障害者とその介護者(障害者手帳を提示)

施設利用のお申込みについて

- 講堂・研修室・茶室のお申込みは、使用しようとする日の6ヶ月前から原則として10日前までです。
- お申込みは開館日の午前9時より受け付けます。文学館チケット売場まで申請者の印鑑をお持ちのうえ、お越しください。
受付時間は午前9時～午後4時30分です。
- 電話での仮予約が可能です。本申請前にぜひご活用ください。(055-235-8080)
仮予約の受付時間は午前10時～午後4時30分です。
- いずれも休館日は受け付けません。使用上の注意はお申込みの際、ご説明いたします。

交通のご案内

中央自動車道

- 甲府昭和インターチェンジより約10分
- 双葉スマートインターチェンジより約10分 ※ETC専用

中部横断自動車道

- 白根インターチェンジより約20分 ※ETC専用

JR中央本線甲府駅より

- JR甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より、03・04系統
竜王駅経由で数島営業所、30系統 貢川^{くわがわ}団地、35系統 大草^{おほくさ}経
由 韮崎駅、39系統 御勤使^{ごきんし}各行ききのバスで約15分、「山梨県立美術館」下車。(340円)
※山梨県立文学館ホームページからも、バスの時刻表を
ご覧いただけます。
- タクシーで約15分。



そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-5-35
TEL: 055-235-8080 FAX: 055-226-9032
<https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

ホームページ

